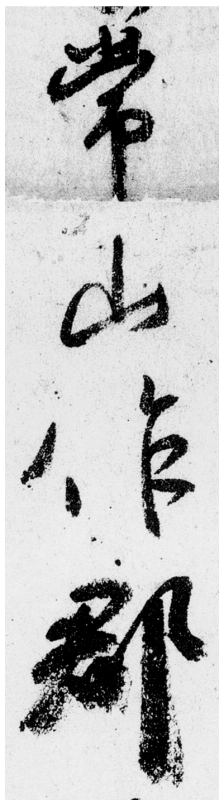
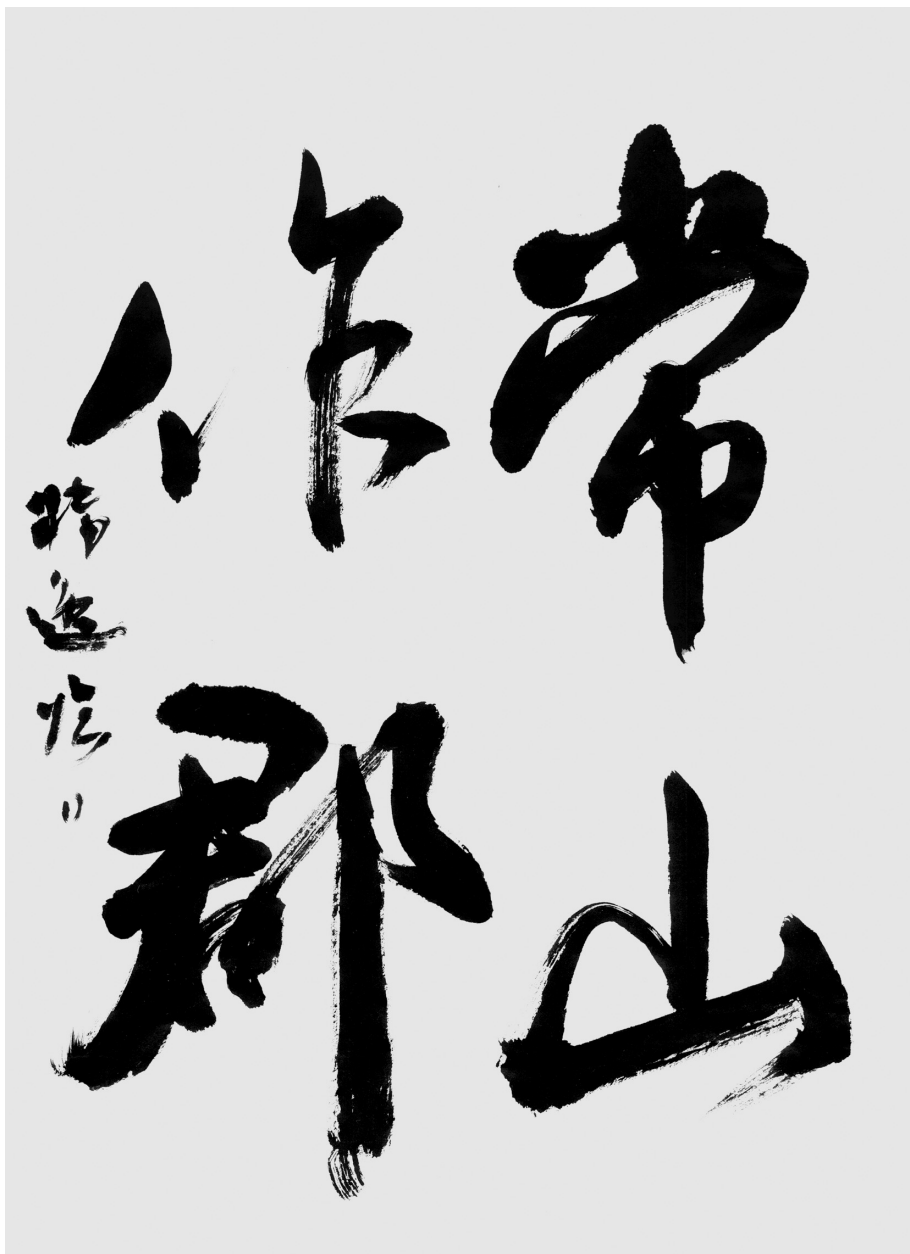


高・大・一般 漢字(行書)

平形 精逸

祭姪文稿(顔真卿) ③



常山作郡

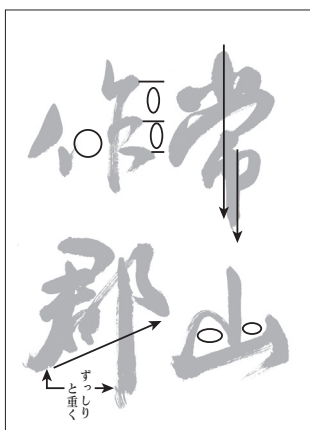
〈解説〉

書は、「率意(卒意とも書く)」と「作意」に分けることができます。率意とは「心のおもむくままに何の意図もなく自然に書くこと」、これに対して作意とは「心を用いている用意工夫して書くこと」です。すなわち、率意の書は、技法にとらわれず書作意識が昂じたときに、意のままに自由に書かれたもので、代表的な古典では王羲之の「蘭亭序」や今取り上げている顔真卿の三稿(祭姪文稿・祭伯文稿・争坐位文稿)などがあげられます。作意は、全体構成や字形、線質などを考え、技巧を尽くして書いたものです。初唐の三大家による楷書の石碑のほか、仮名では「粘葉本和漢朗詠集」「高野切」などがあげられます。

歴史的にはそのままの人間性が表出される率意の書を尊ぶ傾向がありますが、現代の書は近代芸術の思潮を受けて制作意図が重視されます。

〈学習上の留意点〉

「常」…下方の縦画は右にずらします。  
 「山」…三画目は短めに納めます。  
 「作」…人べんと旁との間は広く空け、旁は等分割にします。  
 「郡」…全体に太めですが、最後の縦画は少しりと重く抑えてから払います。



高・大・一般 (毛筆・硬筆)

— のし袋を書く —

今月のはし袋を書いてみましょう。  
書を心得ている皆様は、ご自身の他に家族の分も書いたり、人に頼まれたりして書く機会もあるのではないのでしょうか。

昨今では、さまざまな文化的な行事や習慣が簡略化されたり、〇〇しなければならぬ、という意識が薄れているようですが、金封はお祝い、御礼、お悔やみなどの気持ちを包み、相手へ想う日本の習慣として、失礼のないようにしたいものです。

現在市販されているのし袋の多くは、上書きが印字してあり、とても便利になっています。また、インターネットで検索すると、書き方の例や用法を詳しく調べることができ、覚えたい事のみまとめます。

〈慶事〉水引が蝶結び…何度も繰り返してよいお祝い事に用いる。  
水引が結びきり…一生に一度きりにしたいお祝い事やお見舞いに用いる。

〈弔事〉水引は結びきり。薄墨で書くことが一般的ではあるが、地域により風習の違いがある。

西城 研

課題(A) (毛筆)

〈指定用紙〉半紙1/2を縦に使い、市販の祝儀袋(紅白・蝶結び 約13cm×20cm コピー可)を貼るか枠を手書きする  
〈指定用具〉毛筆(小筆)



※お手本の「出品者名」はご自身の氏名をお書きください

課題(B) (硬筆)

〈指定用紙〉硬筆指定用紙(小三、小四、小五用)  
〈指定用具〉硬筆用ペン、サインペン、ボールペン、万年筆、鉛筆

御	御	御
祝	見	祝
儀	舞	儀
御	御	御
見	見	見
舞	舞	舞
御	御	御
布	布	布
施	施	施

◎配置、配字についての注意



- ・中心を通して書く。
- ・上書きは氏名よりやや大きく書く。
- ・天地がつまりすぎないようにして、同じくらいの広さの空間にするとバランスがよい。

◎「御」の字について



ほとんどの上書きに「御」の字がつかれます。字典で見るとさまざまな書き方があります。提出課題の「御」は見本通りではなく、ご自身の書きやすい形や崩し方に変えて書いても差し支えありません。

△提出について▽

※作品に貼付する出品券欄には、毛筆には毛筆の、硬筆には硬筆の段級位を書いてください。

※提出作品は、課題(A)、(B)のどちらか一点です。

※生涯学習部での提出はできません。